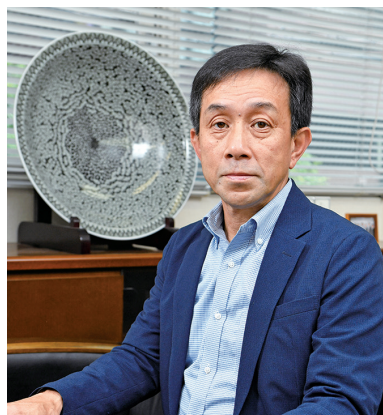


# 大手企業からの直接受託を多数獲得し 来年設立40周年を迎える

金融機関と製造業向けにITサービスをワンストップで提供

九州と東京に拠点を構え、着実な成長を続ける名村情報システム(株)は、関西の老舗(株)名村造船所を中核とする名村グループの1社であり、中堅のIT企業ながら優良な取引先を多数抱え、コロナ禍でも売上を伸ばしている。

## 名村情報システム



鳴崎徹夫社長(伊万里焼が飾られた社長室にて)

### 仕事が次の仕事を呼ぶ

同社のルーツは名村造船所の情報システム部門にあり、一部が独立して1983年に設立された。当時は、銀行業界が第3次オンラインに取り組んでいた時期で、名村造船所のメインバンク(大手銀行)のプロジェクトに参画するチャンスを得る。プロジェクトの結果はもちろん、仕事への取り組みが高く評価され、同社は名村造船所を中心とする製造業向けと、現在では売上の約60%を占める金融機関向けの足掛かりを築き上げた。その後、90年代後半から2000年代にかけて大手銀行の統合が相次ぎ、同社はさまざま

なシステム統合プロジェクトに参加。まさしく1つの仕事が高く評価され、次の仕事へとつながっていった。現在ではIT業界で中堅クラスへと成長。中堅クラスでは珍しく大手企業からプライム案件を直接受託される注目の1社といえよう。

### プライム案件が同時進行

同社の強みの1つは、強固な信頼関係で結ばれた取引先の多さである。それは技術力の高さを意味し、裏返せば人材の力である。現在の社員数は約150人。その8割前後が九州出身者だ。

親会社の造船所が佐賀県伊万里市にある関係で、同社は伊万里市に本社を置いている。九州のIT関係者の間では知名度もあり、地元の優秀な人材が集まるといえる。

「名村カルチャー」とでも言うべき粘り強く、まじめで明るい社員が多く、ITの仕事には不可欠な資質を持ち合わせています。ITでは予期せぬトラブルが起きがちで、それを解決したかと思えば別のトラブルが起き



職場は九州出身者が多く連帯感も強い

きるのは日常茶飯事です。それに対応できる名村カルチャーが自慢の1つです」と鳴崎社長は社員の頑張り感謝する。

現在、同社では複数のプライム案件が同時進行で行われている。製造業向けでは、例えば工場見える化というビッグプロジェクトに取り組んでいる。船舶の建造では、作業に関わる人やクレーンなどの機器が、一般的な工場とは比べようもなく多く、最先端のIoTを駆使して見える化



データセンター「NET LINK伊万里」

には伊万里市内にデータセンターも開設し、お客様の多様なニーズにも応えることができるようになりました」

### 人材への投資を続ける

同社はコロナ禍でもいち早くリモートワークに対応。顧客の開発案件等に遅れを出すことなく満足度の高い評価を得て、売上も伸ばしている。ここ5年間の売上成長率120%、経常利益成長率14.9%と安定した成長を続け、直近の売上は21億5600万円、経常利益は2億6300万円。鳴崎社長は当面の目標を売上30億円達成にしている。それには技術を常に磨く必要があり、人材の育成・研修への投資を惜しまないという。

「IT技術者にとって、大手企業と直接やり取りすることや、システム全体を任せられることは大きな学びとなり、様々なノウハウや技術の蓄積にもなります。中堅クラスの入り口によくやく仲間入りした当社で、大手や準大手にも負けない仕事があ

ることは、社員にとっても大きなやりがいや成長につながっていると思います。だからこそ、売上を伸ばして、社員にも還元したいと考えています」

### 社会に役立つ企業へ

同社は本社を置く伊万里市の活性化にも力を注いでいる。その取り組みが実を結び、21年7月、伊万里デジタルイノベーション協会が設立され、鳴崎社長が会長に選出された。伊万里市や伊万里商工会議所と連携し、IT技術導入による地域振興や市のDX(デジタルトランスフォーメーション)推進の支援を行うという。その第1弾として、同社を含むIT企業9社が伊万里市内にサテライトオフィスを順次開設。小中学生や高校生を対象にしたプログラミング教室の開催などを行い、地元との交流も深めている。

「デジタルによる地域貢献と並行して、工場見える化を実現し、工場の自動化等による効率性の向上に加え、社員の事故やケガの防止にも

つなげたい。また金融面ではマネーロンドリングの徹底排除に少しでも貢献できるようなプロジェクトに参画するなど、社会に役立つ企業を目指していきます。それには、これまで以上に社員一人ひとりと向き合い、それぞれの個性を生かした適材適所を徹底したいと思えます。根はまじめで明るい社員ばかりなので、DX推進の機運も高まっており、近い将来には年商30億円を達成できると信じています」と鳴崎社長はインタビューを力強く締めくくった。



羅針盤が印象的なロゴマーク